

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2795000948		
法人名	社会福祉法人玉美福祉会		
事業所名	グループホーム 向日葵		
所在地	東大阪市玉串元町2丁目12-20		
自己評価作成日	平成 31年 1月 31日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 31年 2月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が常時利用者様に寄り添い不安なく過ごせるよう、笑顔がある生活が送れるよう支援させていただいている。余暇活動や日課活動への参加のおり本人様のできること得意なこと職員間で把握し役割をもって参加していただいている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に貢献してきた社会福祉法人が「認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすために」という思いで1年前に開設したグループホームです。1階2階は地域密着型特別養護老人ホームで、3階がグループホームです。「いつまでも、ありのままに自分らしく住み慣れた地域で安心して暮らしてもらうために」の思いを大切にしています。37年間同法人が、地域に根ざして運営してきた軽費老人ホームの跡地に建てられた事業所は、これまで培ってきた地域とのつながりを継承し、地域に役立つ社会資源となれるようにと考えています。ホームでの手づくりの食事は利用者の楽しみになっています。開設にあたり、行動検知センサーとスマートフォンを軸とした介護業務効率化を実現するシステムを導入しています。このシステムの活用により、職員に時間的・精神的ゆとりができ、ケアの質の向上に繋がっています。管理者や職員が「この自慢は、アットホームでゆったりしているところ」と言うように、ゆとりと時間が流れているグループホームです。これからの取り組みに期待できるグループホームです。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で「五常心」「職員心得」「毎月の標語」を申し送り時に唱和し、常に念頭に置いてその日の業務につくようになっている。	職員は、法人経営理念の『ともに「支え」「歩み」「学び」「考え」「喜ぶ」①利用者・家族とともに ②地域社会とともに ③職員とともに』と職員心得を朝礼時に唱和しています。経営理念はホーム内に掲示し、日常的に職員が確認できるように工夫しています。また、法人発行の広報誌「にこにこ向日葵」にも掲載し、家族や地域住民にも理解してもらっています。	今後、グループホーム独自の理念を作り、職員の目標とされてはいかがでしょうか。理念が家族や地域住民から支持・理解されることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーやコンビニ等に職員や家族様と買い物に出かけたり散歩したりして少しずつ地域と関係を築きつつある。	37年間同法人が、地域に根ざした運営をしてきた軽費老人ホームの跡地に建てられたホームは、これまで培ってきた地域とのつながりを継承し、地域に役立つ社会資源となれるようにと考えています。開設2年目を迎えるにあたり、これから地域との交流の取り組みを積極的に行う予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で認知症の発表・地域包括支援センターの取り組みに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回開催している。 利用者様の生活状況の報告と施設での取り組みの発表等を行い家族様と地域の意見をサービスにつなげている。</p>	<p>管理者は運営推進会議の意義を理解し、真摯に取り組んでいます。会議は開催規程に沿って、2ヶ月に1回定期的に開催しています。参加者は、地域の代表として福祉委員長、地域包括支援センター職員、利用者家族とホーム職員です。毎回ホームより運営状況、行事、事故やヒヤリハットの報告等その他、特別テーマとしてホームの取り組み状況を報告し、参加者の評価や意見を聞いてサービスの向上に活かしています。今までの特別テーマとして①地域との交流を深めるための取り組み②利用者の栄養管理③身体拘束をしないケアへの取り組み等があります。参加者からの要望で、今回は「災害時の対応」を予定しています。毎回議事録を作成し、ホーム職員にも回覧しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>開設して1年も経過していないので日々様々な問題に直面した時には市役所に出向いたり電話でお聞きしたりして指示をいただいている。</p>	<p>市の担当課長や職員とはいつでも相談できる関係にあります。開設後、グループホームの制度や運営、報酬関係等でいろいろ相談し、協力、連携関係を築いています。事故発生時の報告書様式等の準備はしていますが、幸い大きな事故は無く、報告事例はありません。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎月特養向日葵とともに虐待・身体拘束委員会に参加し、なぜ、身体拘束・行動制限を行わないことが必要なのか、施設の現状・問題点を他施設・多職種とも話し合う機会を設けている。会議録は職員が見やすい場所の設置している</p>	<p>管理者は、身体拘束をしないケアを重視し、職員の指導をしています。法人として「身体拘束適正化の指針」があり、ホーム開設時に、「身体拘束ゼロ宣言」の文面を作成しています。併設の特養と合同で、虐待・身体拘束委員会を毎月開催し、身体拘束をしないケアの徹底に取り組んでいます。職員研修も年2回計画し、実施しています。</p> <p>日中、玄関の施錠はしていませんが、エレベータには暗証番号があり、自由に乗り降りができない状況にあります。外出願望のある利用者には職員がより添い、一緒に屋上に出るなど閉塞感のない安全で自由な暮らしの支援に努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月 特養向日葵とともに虐待・身体拘束委員会に参加し施設の現状・問題点を話し合う機会を設けている。会議録は職員が見やすい場所の設置している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会が持てなかったが今後研修等に参加し活用できるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・需要事項説明書にそって説明を行い家族様の同意を得ている。また改定時には家族会を開きご家族様出席のもと説明をさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を開催したり、面会時には家族の要望をお聞きして運営に反映できるよう努めていく。</p>	<p>家族からより多くの意見や要望を出してもらえるように、家族訪問時に声かけし、言いやすい雰囲気作りを心がけています。家族からの意見や要望は、利用者個人別の連絡ノートに記録し、職員間で共有しています。年2回家族会を開催しています。2ヶ月毎に発行している法人全体の広報誌「にこにこ向日葵」を家族に送付しています。</p>	<p>今後、利用者の暮らしぶりがわかる便りを作成して家族に送付し、面会に来ることが難しい家族にも安心してもらうてはいかがでしょうか。利用者や職員の笑顔の写真が家族にも届くことが期待されます。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議や日々のミーティングの中で職員より意見や提案を聞き一緒に考える機会をもち運営にいかせるよう努めている。</p>	<p>会議は月1回、職員が参加しやすい時間帯に開催し、ホームの運営やサービス向上について話し合っています。また、話し合いが必要な時は、随時会議を開き意見交換を行っています。会議で話し合ってもらいたい議題は、事前に自由に出せるようになっています。管理者は職員が日常的に何でも話せる雰囲気作りを大切にしています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人には課長会議があり労働環境の改善に人事考課制度も導入されており自己研鑽の啓発や給料に反映されているためレベルアップにつなげている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員研修や階層別研修を法人内で実施し、受ける側、講義する側の知識・技量の向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の法人施設の見学や研修の参加・交流会に参加し問題の共有意見交換を行いサービスの向上に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活歴・特技・趣味等を本人様・家族様・居宅ケアマネより情報収集しケアプラン作成・日々の余暇活動に活かしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前見学・入居契約時に家族様の要望・生活歴を聴取している。また生活についての要望はフロア職員へ入居前に申し送り(書面)をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時具体的なサービスについて説明をケアマネ・計画作成担当者が家族様・本人様に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のケアの中から利用者様のできる動作・している動作を見極め、施設生活の中でできることを利用者様とともに探している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時には生活状況を報告し、状況に合わせた対応を一緒に行っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様へ地域への外出時の連絡・希望時外泊の調整を行っている	自宅に外泊する利用者もいます。利用者は屋上から家にいた時と同じ、慣れ親しんだ山や家並み、風景を見ることができ、馴染みの場所との関係が継続しています。職員は、利用者から聞いた昔ばなしに、利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せる大切さを学んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席の配慮・余暇活動・日課活動の席順等に配慮している。難聴等コミュニケーションが難しい利用者様には職員が大きな声で再度説明するようなど交流ができる環境を整える努力をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去のため実例なし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1度ではなく何回か機会を設け希望・要望を聞くようにしている 本人様から難しい場合は家族様とともに検討している。	職員は、毎日の生活場面の中で、利用者の意向や希望を聞き取り、一人ひとりに合わせた支援を行っています。「一緒に過ごす時間」を大切にし、思いや意向の把握に努めています。リビングでは、利用者と職員がゆっくりと話合っている光景が日常となっています。また、入浴を「個別に関わる機会」とも位置付けています。一対一で関わることで、心を開いてもらうことができます。日常の関わりの中での気づきや発見は、申し送り時に口頭で職員間で共有しています。	今後は、日常の関わりの中での気づきや発見等を記録に残して職員間で共有し、よりその人らしい支援に繋げることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	余暇活動時・モニタリング時に把握するよう努めている。家族様・フロア職員からも聞き取りを行い支援経過へ記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り時に、排便状況・夜間の睡眠状況・バイタル測定による体調の確認、また必要時職員間でミニカンファレンスを開き現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様面会時に居室担当者・計画作成担当者が家族様とお話しサービス内容の検討を行っている。 また、検討が必要なこと(アクシデント等)が起これば随時カンファレンスを実施し対応している	本人・家族の希望や意向を反映した介護計画になっています。計画作成担当者がモニタリングを毎月行い、更新は基本的には3ヶ月毎に行い、変化があれば随時見直しています。担当者会議には家族の参加もお願いしています。計画作成担当者は、「みんながわかる、解りやすい言葉での具体的な計画」を心がけ、介護計画の作成に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の利用者様の申し送りをを行い。検討内容を介護支援経過に記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>旅行・帰宅等本人様・家族様の希望に沿って調整を行っている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域ボランティアの訪問や特養向日葵、認定こども園たいよう学院の行事に参加することで普段見られない笑顔や園児と触れ合う姿を見ることが出来ている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族様本人様の希望に合わせ自宅のかかりつけ医の継続を支援している。かかりつけ医の変更を希望される場合は向日葵診療所から2週間に1回、回診に来ている。受診時は生活状況・バイタル値・体重値等を報告し健康維持に努めている。</p>	<p>入居前からのかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。ホームの協力医の往診は2週間に1回です。歯科の往診もあります。夜間の緊急時等は、法人の看護師が24時間オンコールで対応しています。管理者は今後、訪問看護など医療関係の他職種連携を深め、利用者の安心・安全な暮らしのための健康管理を実現することも、ホームの課題のひとつと考えています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には基本看護師は常駐しておらず。八戸ノ里向日葵の看護師へ相談している。 緊急時・対応に判断必要な場合は24時間対応となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院許可が下りた際 地域連携室と連携を図り入院中の状況把握・退院後の注意事項の確認を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様と利用者様の現状について報告し家族様が希望されれば他施設へ情報を提供している。	入居時には、継続的に医療行為が必要になれば病院等へ転院することもあると説明しています。今後、重度化した場合や終末期のあり方については、家族と相談して進めていく方針です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の研修に行っていません 急変時の対応マニュアルを目の届くところに置いている。 緊急時・対応に困る時は特養八戸ノ里向日葵の看護師へ報告し指示を受けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を実施してる。そのうち1回は消防署立ち合いのもとに総合訓練を予定している。	災害マニュアルを作成し、年3回避難訓練を行い、消防署の指導も受けています。夜間想定避難訓練も実施しています。災害マニュアルは、火災・地震・台風・大雨、それぞれの対応について作成しています。非常災害時の水や食料も3日分準備し、賞味期限の管理も行っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月特養とともに「接遇委員会」「虐待・身体拘束委員会」に参加し対応を検討しています。会議録は職員が目を通しやすいところに保管している。 グループホームとして毎月ユニット会議で話し合っている。	接遇に関する研修の中で、利用者の人権や尊厳への配慮について確認を行っています。日常のケアの中でのプライバシー保護についても、入浴・排泄などの具体的な場面において、職員間で確認しています。管理者は「利用者は人生の大先輩。自分の親だったらと考えること」と職員に伝えています。リビングでは、職員の利用者に寄り添った関わり方を見ることができます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず本人様に聞いてからケアをおこないます。 入浴時の着替える服、居室の掃除等		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課活動の時間帯を緩やかに設定しており対応できるように配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望・家族様の希望を取り入れ対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人に合わせた食事形態での提供（刻み食・主食おにぎり・味付けごはん等）している 簡単な調理（米を洗う・トレイを拭く等）に参加してもらっている。	業者から材料を仕入れ、ホームで3食調理しています。利用者は、下準備、盛り付け、後片付けなど、それぞれができることを役割分担して行っています。調理師経験のある職員が中心になって作る食事が美味しいのも、ホームの自慢のひとつです。法人の管理栄養士と連携をとりながら、利用者の栄養管理を実施しています。職員も一緒に食事をし、必要に応じて利用者のペースに合わせた介助を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量の確認を行っている。利用者の状態に合わせて必要時とろみ剤の使用、容器（マグカップ）、飲み物の種類を増やし対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士・歯科医と連携し個人に合わせた口腔ケアを行っている。ユニットでは毎食後口腔ケアを行っている。義歯は夕食後の口腔ケア時に義歯洗浄剤を使用し消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	尿便意の有無を確認し日中トイレ誘導し布パンツで対応したり、または日中はハビリパンツとパット夜間はオムツ対応など各利用者の状況に応じて対応している	手元の業務用スマートフォンに、利用者一人ひとりの排泄状況を細やかに記録して自立支援に活かしています。職員は利用者の排泄パターンに応じてさり気なくトイレ誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を支援しています。ユニット内で排泄の申し送りを行う際には、インシヤルトークで行うなど、プライバシーにも配慮しています。紙パンツを使用していた利用者が、随時のトイレ誘導で布パンツ使用になった事例もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人様の排便状況の確認、医師へ報告し医師の指示のもと緩下剤の使用。水分補給・運動をする機会を作っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週で入浴日は決まっているが拒否が強いとき、体調に合わせて翌日に入浴したり時間をずらして入浴してもらっている。	1週間に2～3回の入浴となっています。入浴日以外でも希望があれば入浴できます。入浴を好まない利用者には無理強いせず、声かけの工夫や職員間の連携で安心して入浴してもらっています。本人専用のシャンプー・リンスを使う利用者もいます。一人ひとりお湯を入れ替えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の生活習慣・睡眠状況を把握し本人様の状況にあわせ日中横になる時間を設けたり、起床時間を変えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロアに服薬情報をファイルしており変更時は更新している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の職歴や趣味・得意なことを生かせる余暇活動を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常のレクとしては施設周囲の散歩・屋上の散歩を行っている。各月の余暇活動の中で初詣・外食・他施設行事への参加を家族様とともに参加してもらえる支援を行っている。	日常的に近くへ散歩に出かけます。初詣、外食、家族の協力を得ての外出や外泊等、外出の機会を多く作るように努めています。屋上は広々としており、季節や天候を感じることができます。春には桜を見に行く予定で、利用者も職員も楽しみにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭の所持は認めていない。家族様面会時家族様や職員と自販機にジュースを買いに行ったりちかくのコンビニへ買い物に行かれたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話・手紙に関しては家族様の依頼があった際は取りつないでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は落ち着いた配色・光・広さを保っている レクで制作した作品や外出時の写真等を飾り会話の弾む楽しいと思える空間・リラックスできる空間づくりをしている	管理者・職員は、利用者がアットホームでのんびり過ごせることを一番に考え、環境整備に努めています。リビング&ダイニングは広く、明るく、壁や床が中間色で落ち着いた雰囲気です。壁には節分やひな祭りの大きなクラフト作品等を飾り、季節を感じるができるようにしています。その他飾られている色紙作品や書道作品、ホーム行事等の思い出写真等も楽しい雰囲気を感じさせています。テーブルの座る場所は、利用者が居心地良く過ごせるよう職員が配慮しています。利用者は大きなソファでテレビを見たり、テーブルの椅子に座り、思い思いにゆったりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室に自由に出入りできるようにしている。一人で居室行くことができない場合は職員が付き添っている。 気兼ねせず他者との交流が図れるようなリラックスできるフロアを作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での様子を家族様・前施設職員に聞き取りを行い急激な変化で戸惑わないうように配慮している。本人様とともに居室の飾りを行ったりしている	職員は利用者が安心して居心地良く過ごせるよう、入居前の生活状況を家族や前施設の職員に確認し、できる限り同じような環境の整備に努めています。ベッドと整理庫、カーテンはホームで備えています。ベッドの場所や向きは利用者と相談して決めています。利用者は、それぞれ使い慣れたタンス、椅子、テレビ、時計等を持ち込み、家族の写真やぬいぐるみ等を飾るなどして居心地の良くしています。エアコンの調整は職員が支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活が送れる、安全な生活が送れるよう ベッド位置・高さの確認や家具の配置・居室内の整理整頓に配慮している。 危険なものは利用者様の手の届かないところに置くなどしている。		